

第2回 横浜市保土ヶ谷区地区センター指定管理者選定委員会 議事録

日 時：平成 25 年 8 月 9 日（金） 15 時～17 時

場 所：保土ヶ谷公会堂 1 号会議室

出席者：（委 員）福田幸男委員長、大久保節子委員、柿沼孝志委員
金子陽明委員、宮澤義郎委員 以上 5 名

（事務局）小泉信義、田中真紀子、金床祐輔、高橋友理恵 以上 4 名

欠席者：なし

傍聴者：1 名

1 定足数の確認

上記委員 5 名中、5 名全員が出席。

横浜市保土ヶ谷区地区センター指定管理者選定委員会運営要綱第 7 条第 3 項の規定を
充たしており、本委員会は成立した。

2 議 事

(1) 応募状況について

1 団体（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）から応募があったことについて、
事務局から説明を行った。

(2) 応募資格について

応募団体が応募資格を満たしていることを確認した。納税状況の調査については現
在照会中であり、問題があった場合には委員へ報告することとした（後日、滞納がな
い旨の照会結果を、政策局共創推進課から受理）。

また、応募団体の財務状況について金子委員から報告があり、意見交換した。財
務状況に失格させる状況は見られなかった。

(3) 選定方法について

選定方法について、事務局から説明を行った。

(4) 応募団体の面接審査について

15 時 30 分から、応募のあった 1 団体の面接審査を行った。

応募団体からのプレゼンテーションを 15 分、質疑応答を約 20 分実施した。

委員からの主な質問及び応募団体からの回答は以下のとおり。

- ・ケアプラザとの合築ということだが、両施設の連携についてどのように考えてい
るか。

⇒ケアプラザとの区分けについてはこれまでの運営でも苦労した点であるが、規
模の大きなイベントは共催で行う等工夫している。行事や施設運営は、今後も
協力して行っていきたい。定例的な会合の機会を設け、相乗効果を生み出した
い。

- ・利用者が増加している一方、稼働率は上がっていないが、なぜか。

⇒祭りなど、一度にたくさんの集客がある行事が多いためだと思われる。山坂の
多い立地であるためなかなか稼働率が上がらないが、夜間は特に国大生が利用
するようになった。

- ・ これまでに施設に寄せられた苦情はあるか。
⇒大きな苦情はないが、駐車場がない点で指摘を受けることがある。
- ・ 支出計画について、人件費のスリム化とはどういうことか。
⇒利用の多い時と少ない時で、無駄のないようなローテーションを組むということ。事業費を削減すると質の低下が危惧されるため、人件費の削減に努めたい。
- ・ イベント等で集客の増加を図るために、ボランティアによる手伝いは考えているか。
⇒ボランティア講座や祭りの際に、ボランティアの参加募集をかけている。寺子屋塾という自主事業では、国大生との連携も行っている。地域と連携して、顔の見える関係を築きたい。
- ・ 全国的にコミュニティハウス等の施設運営を行っているようだが、運営ノウハウの共有は行っているのか。
⇒全国及び神奈川県内の施設運営者による集会がある。また、県内のコミュニティハウス運営者が月に1度情報共有する機会がある。他地域のノウハウを共有し、助け合いながら運営をしている。

(5) 審議結果について

委員による意見交換後、応募団体を評価した評点表を集計した。集計結果に基づき、指定候補者を決定することとした。

評価の集計結果は次のとおり。

指定候補者：特定非営利活動法人ワーカーズコープ（506点）

(6) 講評

国大との連携等、地域の特性を生かした事業を提案している点や、これまでの運営実績等については高く評価できる。一方で、ボランティアの活用等、施設稼働率を上げるための方策については具体性に欠けている部分もあったが、規模の大きな団体であり、コミュニティハウスを含めた施設運営のノウハウも持っているため、今後の運営のさらなる改善も期待できる。